

静岡がん会議

2016

医療の国際展開～おもてなし精神を世界へ～

平成29年3月4日(土)

静岡県立静岡がんセンター研究所

主催：静岡県・静岡がんセンター

開催趣旨

2002年、医療城下町をコンセプトにスタートしたファルマバレープロジェクトは、高度がん医療を提供する静岡がんセンターと、本年度に開所したオープンイノベーションの拠点となるファルマバレーセンターとを核として成長・進化を続け、アジアのハブクラスターとして世界へ飛躍していくステージに入ろうとしている。

本会議は、静岡がんセンターが最も大切にする患者・家族を徹底支援する「おもてなし精神」や、ファルマバレーセンター発の高度な医療機器等の国際展開、及び世界6地域から招聘する医療機関や研究機関の最新事例の紹介を通じ、医療を核とした国際展開と産業振興の新たなあり方を提案することを目的として開催する。



静岡県立静岡がんセンター総長 山口 建

プログラム

静岡がん会議2016 | 平成29年3月4日(土) 静岡がんセンター研究所 しおさいホール

テーマ：医療の国際展開～おもてなし精神を世界へ～

10:00	主催者挨拶	吉林 章仁 (静岡県 副知事)
10:10	核酸分離システム“クイック・ジーン ミニ480” 贈呈式	
10:30	実行委員長挨拶	山口 建 (静岡県立静岡がんセンター 総長)
11:00	特別講演 1	医療の国際展開に向けた経済産業省の取り組み 笹子 宗一郎 (経済産業省商務情報政策局ヘルスケア産業課 国際展開推進室長)
11:25	特別講演 2	世界の保健医療課題とJICAの取り組み 高島 和音 (国際協力機構人間開発部保健第二グループ保健第三チーム 専門嘱託)
11:50	特別講演 3	静岡県の国際展開について 篠原 清志 (静岡県 経済産業部 部長)
12:15	特別講演 4	医療の国際展開の現状 山本 行俊 (株式会社システム環境研究所 代表取締役会長)
12:35	質疑応答 (10分)	
12:45	昼食 (60分)	
13:45	講演 1	ベトナムにおけるがん治療の紹介 グエン・チュン・ソン (ベトナムチョーライ病院 院長)
14:00	講演 2	フィリピンにおける国民皆保険制度を実現するための 民間部門参加による医療改革 テオドロ・ヘラボサ (フィリピン大学 副学長)
14:15	講演 3	四川省におけるがん医療の現状と課題 チャン・ジーホイ (中国四川省腫瘤医院 研究所腫瘍内科 主任)
14:30	質疑応答 (15分)	
14:45	講演 4	がんのないモンゴル“イトゲル-希望”国家基金と 静岡がんセンターとの歩みとモンゴルの医療状況 サンボ・ナランゲレル (がんのないモンゴル“イトゲル-希望”国家基金 秘書)
15:00	講演 5	ロシアの主要がんセンターにおける放射線治療の現状 アレクセイ・ナザレンコ (ロシア国立プロビンがんセンター 放射線治療部長)
15:15	質疑応答 (10分)	
15:25	休憩 (10分)	
15:35	講演 6	ジェットロにおける海外展開支援の取り組み 新井 剛史 (日本貿易振興機構サービス産業部ヘルスケア産業課 課長代理)
16:00	講演 7	ITRIのオープンイノベーション計画—BDL、ITRIの革新的なコアテクノロジー マギー・リー (台湾工業技術研究院 バイオメディカル&デバイス研究所 分子標的薬開発センター 副部長)
16:25	講演 8	ファルマバレープロジェクト新拠点の取り組み 植田 勝智 (公益財団法人 静岡県産業振興財団ファルマバレーセンター 所長)
16:45	質疑応答 (15分)	
17:00	閉会挨拶	山口 建 (静岡県立静岡がんセンター 総長)

特別講演1

医療の国際展開に向けた経済産業省の取り組み

講師

笹子 宗一郎（経済産業省商務情報政策局ヘルスケア産業課 国際展開推進室長）



経歴・研究活動等

1997.3	東京大学法学部卒業
1997.4	厚生省(現:厚生労働省)入省
2006.9	厚生労働省医政局経済課長補佐 保険局総務課長補佐・高齢者医療企画室長補佐
2008.7	在英国日本国大使館一等書記官
2011.8	厚生労働省大臣官房国際課長補佐、 社会・援護局援護企画課長補佐、大臣官房会計課長補佐
2013.9	厚生労働副大臣秘書官事務取扱
2014.9	医政局看護職員確保対策官
2015.10	現職

政府においては、平成25年に閣議決定された「日本再興戦略」も踏まえ、官民一体となって、我が国の医療サービスや医療機器等の海外展開(アウトバウンド)と、日本国内での診療を望む外国人患者の受入促進(インバウンド)を進めている。

本講演においては、経済産業省の取り組みを中心にして、医療の国際展開に関する政府の取り組みや事例を紹介するとともに、課題や今後の方向性について説明する。

特別講演2

世界の保健医療課題とJICAの取り組み

講師

高島 和音（国際協力機構人間開発部保健第二グループ保健第三チーム 専門嘱託）



経歴・研究活動等

2003.3	国際医療福祉大学 保健学部看護学科卒業
2003.4~2006.6	東京医科大学八王子医療センター入職 看護部(救急救命部)配属
2007.1~2009.1	青年海外協力隊 保健師隊員としてドミニカ共和国に派遣
2009.3~2009.11	特定非営利活動法人「地球のステージ」入職 東ティモール駐在 母子保健事業担当
2010.1	公益財団法人日本国際民間協力会 ハイチ地震コーディネーター派遣
2010.3~2011.6	東京医科大学八王子医療センター入職 看護部 救急部/CCU 配属
2011.9~2012.8	リバプール熱帯医学大学校 修士課程
2013.4~2015.9	JICA 国際緊急援助隊事務局 所属
2015.9~現在	JICA 人間開発部保健第二グループ 保健第三チーム 所属

JICAは、日本の政府開発援助の実施機関として、「すべての人々が恩恵を受けるダイナミックな開発」というビジョンを掲げ、開発途上国の抱える課題解決を支援している。2015年9月に国際社会は、ミレニアム開発目標(MDGs)の後継として持続可能な開発目標(SDGs)という指針を立てた。それに基づき、今日の世界の抱える保健医療課題に対し、日本の経験や最新技術を用いてJICAがどのような役割を担い事業を展開しているかについて説明する。

特別講演3

静岡県での国際展開について

講師

篠原 清志（静岡県 経済産業部 部長）



経歴・研究活動等

1979.3	東北大学法学部卒業
1979.4	静岡県入庁
1987.4	通商産業省資源エネルギー庁
1997.4	シンガポール駐在
2007.4	厚生部企画監(ファルマバレー担当)
2008.4	産業部商工業局新産業集積室長
2009.4	産業部政策監
2010.4	経済産業部理事兼文化・観光部理事
2012.4	企画広報部政策企画局長
2013.4	経済産業部部長代理
2014.4	企業局長
2015.4	経済産業部部長(現職)

静岡県は、産業・教育・文化など様々な分野で地域外交を推進している。この地域外交は、これまで「交流」を中心に展開してきたが、現在は「通商」に力を入れている。具体的には、海外の地域や研究機関、大学などとのオープンイノベーションを進めるとともに、県内で生まれた製品やシステムを広く世界へと発信・供給し、相手国・相手地域と相互に実のある取り組みを具体的に進めている。全国でも例のない新しい国際展開を提示する。

特別講演4

医療の国際展開の現状

講師

山本 行俊 (株式会社システム環境研究所 代表取締役会長)



経歴・研究活動等

1980.4	株式会社セントラルユニ
1993.4	株式会社システム環境研究所 代表取締役社長
2013	株式会社システム環境研究所 代表取締役会長

弊事業の国際展開の現状について、次の項目構成で、それぞれの概要とポイントの説明を行う。

1. 弊社概要
2. 現在、事業展開中の各国における医療を取り巻く現状
3. 各国から求められる事業展開の条件
4. 事業展開にふさわしい対象業務
5. コンサルテーションのポイント
6. パートナーの必要性(連携の方法)

講演1

ベトナムにおけるがん治療の紹介

講師

グエン・チュン・ソン (ベトナムチョーライ病院 院長)



経歴・研究活動等

1987	ホーチミン市医科薬科大学医学部 卒業
1988	チョーライ病院血液部門 入職
2000	軍事医学アカデミーにて免疫学博士号取得
2001	チョーライ病院 部長
2006	チョーライ病院 副院長
2008.4	チョーライ病院 院長

- ・ベトナムにおけるがんの疫学
- ・がん患者に対する医療システムの過去と現在
- ・チョーライ病院の紹介
- ・チョーライのがん治療
- ・私たちの使命と今後の発展

講演2

フィリピンにおける国民皆保険制度を実現するための民間部門参加による医療改革

講師

テオドロ・ヘラボサ (フィリピン大学 副学長)



経歴・研究活動等

2014.1~現在	マニラ首都圏病院事業団 理事長
2014.2~現在	危機管理および復興タスクフォース コーディネーター
2011.8~2014.1	首都圏および南ルソン事業団 理事長
2010.12~現在	官民医療パートナーシップセンター センター長
2012.3~2015.3	フィリピン保健省・Philhealth 共同IT化プロジェクト運営委員会 会長
2011.8~2015.3	フィリピン保健省研修と開発のための健康診断委員会 副会長
2011.7~2012.5	入札・裁定委員会特別中央事務局 局長
2012.9~2015.3	パフォーマンス管理チーム メンバー
2014.3~2015.3	保健省・科学技術省Eヘルス国家管理運営委員会 メンバー
2017.2~現在	フィリピン大学 副学長
教育 1979	フィリピン大学ディリマン校人文科学部生物学学士号取得 (優秀賞)
1983	フィリピン大学マニラ校医学部 医学士号取得
1995	ジュネーブ大学、WHOフェロー 防災・危機管理コース 学位取得
受賞歴 2011.2	UPSILON Noble and Outstanding Award (フィリピン大学友愛会)
2011.6	UP Outstanding Alumnus Award for Public Service
2013.6	同窓会業績優秀賞(フィリピン大学同窓会)

フィリピンは、多くの困難を乗り越えて、低所得国から中所得国へと発展を遂げ、今も活発な進歩の途上にある。現在、フィリピンの人口は1億人を超え、そのうち半数を25歳以下の若者が占めている。いわゆる人口ボーナス期の只中にあるこの国において持続的な進展による国益の実現を図るためには、国民の健康と国の発展を並行して進めていくことが不可欠である。

過去数十年間にわたって、フィリピンでは医療格差の解消に取り組んできた。貧困層やその他社会から取り残された人々は、最低限の医療を受けることすらできない状態であった。1990年代初頭に医療制度の地域分散化が実施されたものの、その意図に反して医療格差はかえって悪化する結果となった。1990年代中盤に国民健康保険制度が始まったが、被雇用者は制度に加入できないため、格差は変わらず残った。5年前、私たちは国民皆保険制度の達成を模索したが、格差の解消のためには、相応の資金を調達する必要があった。タバコと酒に消費税をかけ、その税収を健康保険制度の資金とするため、私たちはこれらの税の法案可決に向けて陳情を行った。その甲斐あって、今日では国民の96%が国民健康保険に加入している。

次の課題はアクセシビリティの確保であった。ここでは健保制度の54%を構成する民間部門の協力が不可欠であった。その取り組みは、たとえば、公立病院の中に民間所有の人工透析装置を設備した透析センターを設け、透析サービスのアクセシビリティを向上させた例などに結実している。また、公立病院内に独立した診断機能を持つがんセンターや、放射線治療センターを設置するプロジェクトを立ち上げ、近年、サイクロトロン施設や公的医療機関では初のPETスキャン装置を設置した。以上のように、民間部門の協力は今後も皆保険制度の達成において大きな力になっていくものと考えられる。

講演3

四川省におけるがん医療の現状と課題

講師

チャン・ジーホイ (中国四川省腫瘍医院・研究所腫瘍内科 主任)



経歴・研究活動等

四川省腫瘍医院・研究所 腫瘍内科 主任、医学博士、腫瘍学教授。重慶医科大学にて1984年に医学士号取得。1995年8月、日本政府・文部科学省の奨学金を得て同年山形大学医学部に留学。免疫学の権威、仙道富士郎教授に師事し、基礎免疫学の研究に従事。1999年3月に医学博士号を取得後、同年四川省腫瘍医院・研究所腫瘍内科に職務復帰。悪性リンパ腫を専門に、化学療法、生物学的療法、分子標的療法の研究・医療に携わる。

本稿では四川省におけるがん治療の現状と課題を多面的に考察し、悪性腫瘍の発生の背景にある社会経済、地理的環境および生活習慣を分析する。また、四川省における悪性腫瘍の発生率および多発する範囲をレトロスペクティブに示す。さらに、四川省腫瘍医院のレイアウトおよび放射線治療に関する施設と技術を紹介する。同時に医院における分類管理、専門医研修、悪性腫瘍予防・治療における課題も紹介する。

講演4

がんのないモンゴル“イトゲルー希望”国家基金と静岡がんセンターとの歩みとモンゴルの医療状況

講師

サンボ・ナランゲレル (がんのないモンゴル“イトゲルー希望”国家基金 秘書)



経歴・研究活動等

1990	医科専門学校にて助産師取得
2005	モンゴル金融経済大学卒業
2007	モンゴル金融経済大学大学院卒業
1990～2008	国立第一病院助産師
2008～2010	タワンボグド株式会社マネージャー
2010	がんのないモンゴル “イトゲルー希望”国家基金 秘書

モンゴル国では、がん患者が毎年増えており、70%が末期の状態で見られている。これは、モンゴルの遊牧生活スタイルや個人の医療に関する知識レベルの低さ、医療環境が整っていないことが原因と考えられ、近年これらの問題に解決できるレベルで取り組んでいる。例えば、僻地でがん撲滅運動を行ったことでがんが早期に発見されたり、医師の技術力向上のためアジアやヨーロッパなどの先進国の医療技術を学んだりしている。また、肝臓移植手術が国際基準に達し、現在までに34例に行われた。今後はモンゴルのがんに関連した調査や診察、最先端の技術を取り入れることが必須となる。

モンゴル国大統領夫人 ポロルマーが代表を務めるがんのないモンゴル“イトゲルー希望”国家基金は、国民の医療に関する知識を向上させること、医療環境を改善すること、最先端の医療技術を導入すること、医療従事者のレベルを向上させるといった目的で活動している。財団設立時には、モンゴル国で緩和医療がはじまって10年だったが、16あった緩和医療ベッドが今では125に増え、21県とウランバートル市9区で緩和医療ができる環境になった。今まで、静岡がんセンターから250冊の緩和医療手引きが送られ、モンゴル全土に配布されている。

私たちの交流は、2010年の覚書締結から始まり、今までに28人の医療者が研修を受け、がん診察器具や本を受け取った。昨年3月には協定書を締結し、2人の医師と1人の看護師が研修を受けた。

講演5

ロシアの主要がんセンターにおける放射線治療の現状

講師

アレクセイ・ナザレンコ (ロシア国立プロヒンがんセンター 放射線治療部長)



経歴・研究活動等

2002.10	ロシア国立プロヒンがんセンター 研究員
2006.11	ロシア国立プロヒンがんセンター 上級研究員
2010.12	ロシア鉄道省セマシニコ第2セントラルクリニック 放射線治療部長
2012.10	放射線外科クリニック「オンコストップ」放射線腫瘍学 有限会社サイバーライフ 副所長
2015.4	ロシア国立プロヒンがんセンター 放射線治療部長 資格
2003.5	ロシア国立プロヒンがんセンター 博士号取得
2016.7	ロシア国立X線・放射線科学センター 専門医資格取得
2011.4	有限会社「エナージア」教育修了資格取得

がん患者のおよそ50%がいずれかの治療段階において放射線治療を必要とする。NNプロヒンの名を取ったがんセンターは、ロシアおよびヨーロッパを代表する最大のがん専門病院である。当院の放射線治療部では毎年約3千人の患者が根治的または緩和的な放射線治療を受けている。当部では放射線治療に求められるあらゆる現代技術を提供している。唯一不足しているのは陽子線治療である。

講演6

ジェットロにおける海外展開支援の取り組み

講師

新井 剛史 (日本貿易振興機構サービス産業部ヘルスケア産業課 課長代理)



経歴・研究活動等

- | | |
|--------|--------------------------|
| 1995.4 | 日本貿易振興会入会 (現 日本貿易振興機構) |
| 2011.4 | 三重貿易情報センター所長 |
| 2015.4 | サービス産業部ヘルスケア産業課課長代理 (現職) |

ジェットロは、「日本再興戦略」で期待されている役割を踏まえ、対日直接投資の促進、農林水産物・食品の輸出促進、我が国中堅・中小企業の海外展開支援に重点を置き、事業に取り組んでいる。

当課は2015年4月に発足、バイオ医薬品関連、医療機器、健康長寿機器・サービスの3分野を所掌し、具体的には①海外情報の提供、②海外展示会等でのビジネス支援、③ビジネス環境の改善を通じ、日本企業の海外展開支援に取り組んでいる。

講演7

ITRIのオープンイノベーション計画 —— BDL、ITRIの革新的なコアテクノロジー

講師

マギー・リー (台湾工業技術研究院 バイオメディカル&デバイス研究所 分子標的薬開発センター副部長)



経歴・研究活動等

過去に18年間にわたり、TNO、NRC、JGC、韓国国立慶北大学、2-BBB (旧 to-BBB) 他台湾国内の15以上の企業において職務に従事。今日の経営および技術的指導者としての能力は、18年間のうちに育んだ豊かな人脈とグローバルな視点に支えられている。

これまでに、台湾国内および海外における20のプロジェクトにおいて技術委託契約を結び、製薬およびバイオテクノロジー業界内で強固なネットワークを確立。職歴には、研究開発団体のマネジメント、およびベンチテストから前臨床・臨床の場までの製品開発を含み、ドラッグデリバリーの最先端技術分野や新製品開発分野において20以上の特許を保持するなど、実績が広く認められている。

その功績に対し、政府から National Innovation Awards (2016年、2013年、2012年)、ITRIから振興貢献賞 (2012年、銀賞)、優秀研究賞 (2012年金賞、2011年銅賞、2009年銀賞)、Excellent R&D Program, DoIT, MOEA (2009年)、BDL最優秀発明賞 (2013年、2011年) など多くの賞を獲得。

ITRIは台湾最大かつ世界的研究機関である。バイオメディカル&デバイス研究所ではバイオ・創薬産業の競争力向上の為、1. 創薬 (NCE/中草薬/DDS/タンパク質工学/GMP製造) 2. コンビネーション製品 (細胞治療/埋込型生物基質/ハイドロゲル) 3. 医療機器と診断法 (IVD/医療電子や画像) 技術に注力し、学界と事業化の溝を埋め革新をもたらす。コアIP・技術移転・ベンチャー創出等、産業に付加価値と利益をもたらす。国内外パートナーと様々な方法で委託・共同研究を行っている。ターゲティングによるITRIの個別化医療研究とADC技術もじき導入されるであろう。

講演8

ファルマバレープロジェクト新拠点の取り組み

講師

植田 勝智 (公益財団法人 静岡県産業振興財団ファルマバレーセンター 所長)



経歴・研究活動等

- | | |
|--------|---|
| 1976.4 | 静岡県中小企業団体中央会入会
静岡県内の中小企業で組織される協同組合等の設立から運営支援に従事 |
| 2005.4 | (公財) 静岡県産業振興財団ファルマバレーセンター副所長として出向
創業探索事業、静岡県治験ネットワークの運営及び医療・健康産業分野に進出を図る地域企業の医看連携に努める。 |
| 2012.4 | 同センター所長に就任。
現在に至る。 |

平成14年4月にファルマバレープロジェクトがスタートし、間もなく16年目を迎える。昨年3月1日、静岡がんセンターと両輪となって、プロジェクトを推進する「静岡県医療健康産業研究開発センター」が生産ゾーンを一部開所し、9月1日には研究ゾーンに地域有力企業等が入居して、全12社とプロジェクトの中核的支援機関であるファルマバレーセンターが本格的に活動を始めている。始動から6ヶ月余り、早くも具体的な企業連携が生まれている。